

請願第 1 号 大楠幼稚園の廃止の撤回と、大楠地区の子ども子育て環境の充実を求める請願(写)

大楠幼稚園の廃止の撤回と、大楠地区の子ども子育て環境の充実を求める請願

2015年6月、大楠幼稚園、諏訪幼稚園の公立幼稚園2園の廃止提案が、横須賀市議会第2回定例会でありました。その後、9月の第3回定例会では、2園の廃止については、1年間延期し、諏訪幼稚園については、新設される中央こども園に接続する方向で、子ども子育ての施策を推進するとの報告がありました。一方で大楠幼稚園については、単に廃止するというのみで、大楠地区の子育て環境の今後の展望が示されていません。

横須賀市教育委員会は、保護者と地域関係者に対して説明会を3回開催しましたが、説明会の中で大楠幼稚園の廃止について、①直近の数年間定員(1クラス35人)に達していないこと、②公立幼稚園の意義が薄れていること、③施設配置計画の中で位置づけられていること、以上の3点を理由としてあげています。しかし、この説明は私たちにとっては、どの一つをとっても理由として納得できるものではありません。

①の理由については、元々、大楠幼稚園には、諏訪幼稚園のような地域と取り決めた約束はありません。定員35人の設定は法令上の上限であり、法令上の上限を廃止の要件としていること自体にも問題があります。現状で大楠幼稚園は年中(4才児)33名、年長(5才児)24名の合計57名が在園しており、市内の平均的なクラスあたりの児童数(20~25人)と比較しても、適正な規模であって、廃止の理由として適正な人数の減少とは言えません。

②の理由については、公立幼稚園の意義として、「民間幼稚園にできることは民間で」という説明でしたが、大楠地域は、そもそも私立幼稚園がなく、8割の園児が地域内から通う子どもです。そういったことから、民間幼稚園の経営を圧迫している事実は見当たりません。また、民間幼稚園では入園が困難とされた児童の受け皿として「民間ではできない役割」をはたしています。さらに、横須賀市は顕著に「子どもの貧困」の状況が指摘される中、公立幼稚園・公立子ども園の意義は一層強くなっています。

③の理由については、施設配置適正化計画の冒頭で、吉田雄人市長は「この計画は、将来構想として策定したものであり、全て細部にわたって決定したものではありません。今後、この計画の考え方にに基づき、具体的な施設分野別実施計画を策定します。その策定過程では、市民と行政が知恵を出し合いながら、より良い施設の在り方を検討する場を設けたいと考えています」と述べています。そのことからすれば、まず、「検討する場」を設定し、丁寧に審議することが、最低限必要なプロセスと考えます。

また、大楠幼稚園は大楠小学校敷地内に併設され、小学校と幼少連携ができる貴重な環境であり、双方への大きな効果もあります。学校給食の交流や日常的な連携などから小1ギャップの解消に大きな役割を果たしています。

現在大楠幼稚園は大楠小学校区(秋谷・久留和・芦名・佐島・子安・佐島の丘)から通園している児童が8割を超えていますが、この地域の就学前児童数は、平成20年には310人でしたが平成27年4月には、407人と増加傾向(※横須賀市子ども育成部調査)にあり、今後も大楠幼稚園



に隣接した芦名・秋谷・佐島なぎさの丘地区には、児童数の増加が見込まれます。

横須賀市内では、大幅に人口減少が進む中、増加傾向にあるのは追浜地区と、大楠幼稚園隣接の秋谷・芦名・佐島の丘の地区です。つまりは、この両地区に対して、子ども子育て対策を重視することが強く望まれています。それに対して真逆の幼稚園廃園提案は、人口が増えつつあるこの地域から、子育てが難しいという理由で、定住を敬遠させる要因にもなりかねません。

今回の教育委員会の提案は、平成27年8月21日の教育委員会定例会の議案第44号「市立幼稚園の廃園について」において審査されたものですが、その会議においても、事務局の提案は廃園ありきで説明がなされ、大楠幼稚園の状況、地域のニーズや子ども子育ての今後の影響については、説明も論議も一切されずに議決されています。

地域住民にとって、地域の中で子ども達をはぐくみ、育てることは、子ども子育ての基本的な考え方であり、地域の拠点としての子ども子育て施設の存在は、「地域の宝」でもあります。これまで大楠幼稚園は、地域のお年寄り子どもたちとが関わり、地域の賑わいの源泉となっています。地域の老人介護施設や地元老人会との交流活動も活発に行われ、保護者やそのOBで構成された太鼓グループは、様々な地域のイベントでも活躍し、文化的なつながりも広がっています。

地域にとっても、横須賀市にとっても「子どもこそ未来」なのです。横須賀市は「子どもが主役になれるまち」を政策の柱としています。この政策を進める意味でも、子育て環境の充実に力を尽くす必要があります。

さらに、施設配置適正化計画の進め方からしても、要項に明記している「検討する場」すらつくらずに進めていることは、大きな問題と言わざるを得ません。

以上のことから、下記の2点について要請します。

記

- 一、大楠幼稚園の廃園について、白紙撤回すること
- 二、大楠幼稚園の継続も含め、大楠地区の子ども子育て環境の今後の展望を示すこと。これにあたっては、保護者や地域と協議の場を設けること

2016年2月12日

横須賀市教育委員会委員長

荒川 由美子様

請願者

共同代表

及び署名

6966 筆

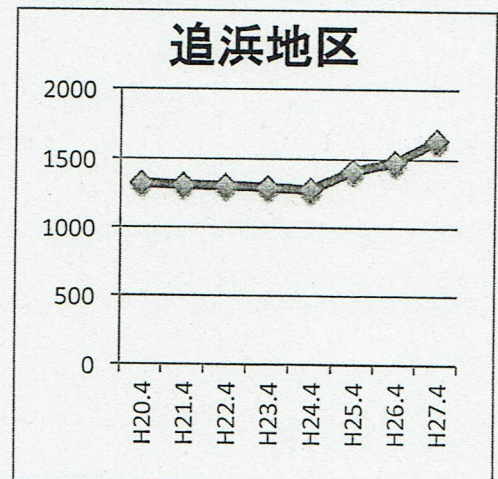
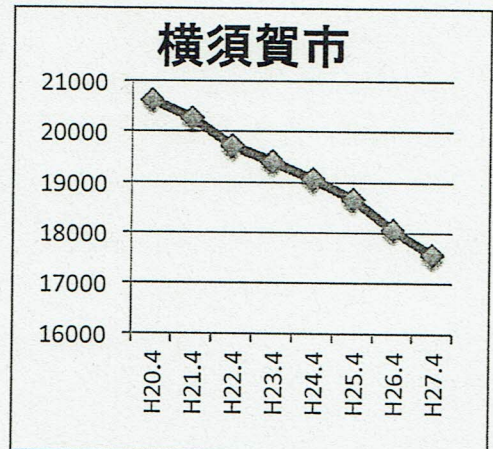
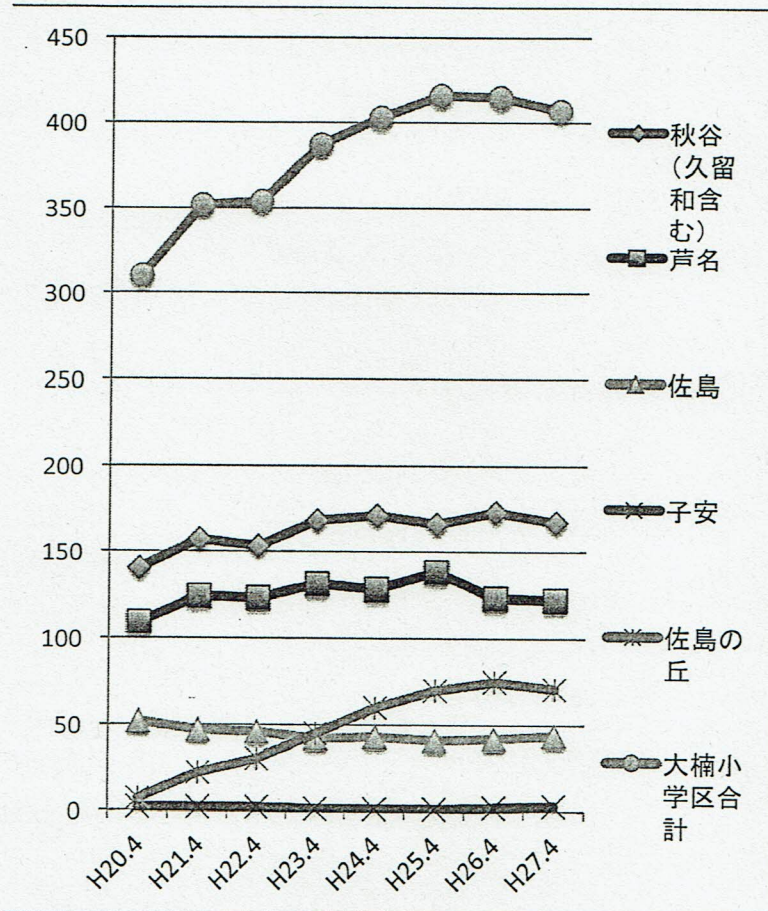
大楠小学区の就学前児童数の人口の推移 横須賀市子ども育成部資料より

	H20.4	H21.4	H22.4	H23.4	H24.4	H25.4	H26.4	H27.4	H27-H20	%
秋谷(久留和含む)	140	157	153	168	171	166	173	167	27	19.3
芦名	109	124	123	131	128	138	123	122	13	11.9
佐島	52	47	46	42	43	41	42	44	-8	(15.4)
子安	2	2	2	1	1	1	2	3	1	50.0
佐島の丘	7	22	30	45	60	70	75	71	64	914.3
大楠小学区合計	310	352	354	387	403	416	415	407	97	31.3

※湘南国際村は、通学区域としての指定はしていないため入れていません。

H20.4	H20.4	H21.4	H22.4	H23.4	H24.4	H25.4	H26.4	H27.4	H27-H20	%
追浜地区	1322	1311	1304	1292	1277	1415	1477	1638	316	23.9

H20.4	H20.4	H21.4	H22.4	H23.4	H24.4	H25.4	H26.4	H27.4	H27-H20	%
横須賀市	20621	20257	19715	19409	19071	18673	18058	17562	-3059	(14.8)



- ・大楠小学校区は、佐島の丘団地約70人増加。小学校1年27年度1クラス増/全体で31.3%増。
- ・芦名、佐島は横ばい。佐島の丘は、今後住宅の新築が見込まれ、児童数も増加が見込。
- ・横須賀市は全体的に減少傾向。14.8%減
- ・追浜・浦郷地区がH25～大規模マンションの建設による入居で急増。23.9%増